

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ
市議団ニュース

<第3回定例会>

2016年10月24日

No. 165

日本共産党札幌市議団 事務局
tel 211-3221 / fax 218-5124

障がい者交通費助成・ICカードに移行——障がい者の負担とならないよう実情に応じた対応を

太田秀子議員が質問

日本共産党の太田秀子議員は12日、決算特別委員会で障がい者交通費助成について質問しました。

太田議員は、「障がいのある方の社会参加を広げ、小規模作業所などに通う上でも交通費の助成はなくてはならない制度」と強調。来年4月からICカードに変更（中度の方は「記名サピカ」、助成分がチャージ＝入金）される問題について、丁寧な周知を求めるとともに「移行後も希望すれば現在の助成カードを選択できるのか」とたずねました。

嶋内障がい保健福祉部長は、「ICカードはくり返し使え、交通事業者の磁気カード（現在の助成カード）の機器も老朽化しており継続は困難」とのべました。

太田議員は、「中度の障がい者は必ずサピカを用意しなければならない」とのべ、サピカの購入費2000円について、「ある作業所では受け取る工賃は1日500円で2000円は4日分にあたり、障がい者にとって決して安い金額ではない」として、「サピカを持っていない方に、対策は考えているのか」とたずねました。

嶋内部長は、「希望する方に、助成カード（3000円）と2500円（※）がチャージされたサピカを引き換えることができる引換証を渡し、自己負担のないよう対応している」とのべました。

太田議員が「それでも、助成カードの残りが少なくサピカと引き換えできないとか、2000円で購入することができない方もいる」として、「来年度の助成分からでも引き換えを可能とするなど、障がい者の実情に応じた柔軟な配慮が必要」とたずねると、嶋内部長は「今回のサピカ引換証と同様な形で利用者負担が生じないよう方策を検討したい」と答えました。

※サピカには、デポジット（保証金）500円が含まれ、将来不要になった場合に払い戻されます。これと2500円を合わせて3000円で同額としている。

市内経済の担い手、小規模企業の育成・支援強化を

村上ひとし議員が質問

日本共産党の村上ひとし議員は14日、決算特別委員会で小規模企業の支援について質問しました。

村上議員は、市内総生産が2010年以降4年連続の伸びをみせ事業所数、従業員数ともに増加傾向にあるが、「本市の経済を支えている中小企業（事業所数で9割超）、とくにその8割を占める小規模企業が資金や人材不足などの課題を抱えている」と指摘。そのうえで「事業所及び従業員数が伸びている業種は何か」とたずねると、小野産業振興部長は、「医療福祉分野で事業所数、従業員数ともに増加している」とのべました。

村上議員は、「高齢化で介護分野は増加しているが、一方、理髪店などの地域の個人事業主は高齢化や後継などの問題を抱えている」とのべ、例えば、自宅やデイサービスに通う高齢者への散髪の訪問サービスといった連携や、高齢化で廃業を考えている理髪店に意欲のある若者を紹介するなど、「経済基盤の弱い小規模企業への創意的な支援が必要」とたずねました。

小野部長は、「高齢者向けビジネスの促進のためにも創業支援や事業承継の支援をさらに連携できないか検討する」とのべました。